

九州デジタル推進ワーキンググループ 説明資料

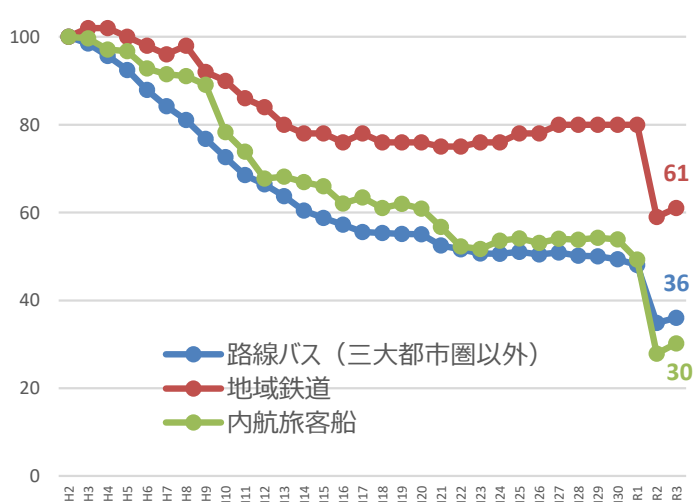
令和6年9月24日
九州運輸局

公共交通事業者の現状

- 長期的な利用者の減少、**コロナの影響**による急激な落ち込みもあり、公共交通事業者の経営環境は悪化。コロナ後も利用者数がコロナ以前の水準までには回復していない状況。
- 路線バスや地域鉄道について、多くの事業者が**赤字**となっており、回復の見通しが厳しいことから、今後の安定的な公共交通サービスの提供に課題。
- 自動車（バス・タクシー）の運転業務の賃金水準は低く、**人手不足**が深刻化（有効求人倍率は全職業平均の2倍程度の水準で推移）。いわゆる2024年問題に直面しており、人手不足を要因とする路線バスの休廃止などの動きが拡大していくおそれ。
- 交通分野において、多くの事業者でキャッシュレス決済対応や運行管理、車両・設備管理、労務管理等について、**DXの取組に遅れ**。

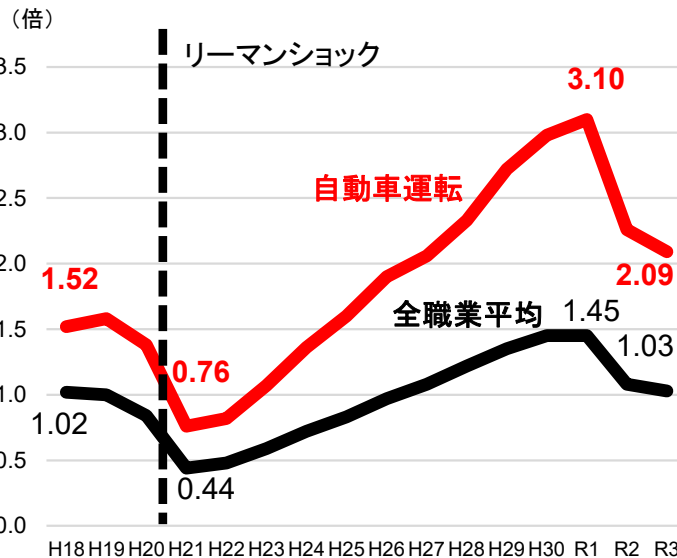
路線バス、地域鉄道、内航旅客船の利用者数

H2=100とした場合の推移



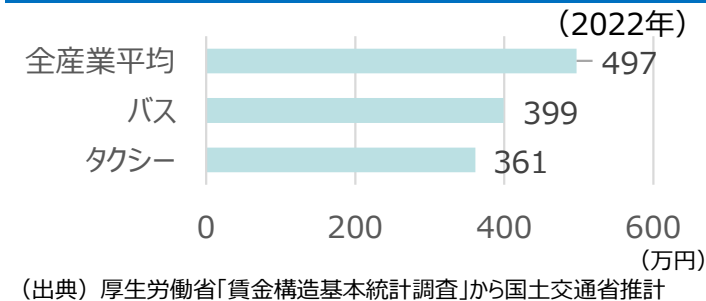
(出典) 「自動車輸送統計年報」、「鉄道統計年報」、「船舶運航事業者等の提出する定期報告書に関する省令」に基づく国土交通省海事局内航課調査より国土交通省作成

自動車運転業の人手不足

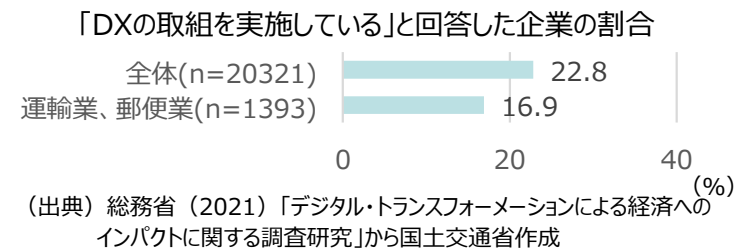


(出典) 厚生労働省「一般職業紹介状況」より国土交通省作成

自動車運転者の賃金水準



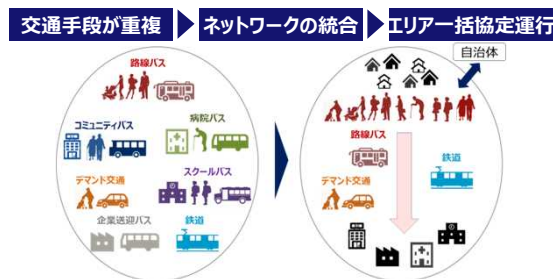
産業別のDX取組状況



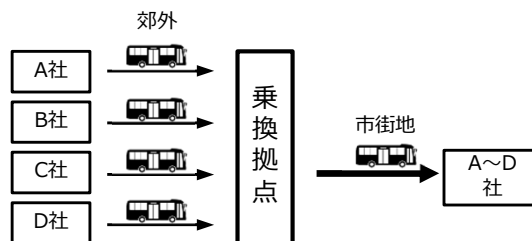
地域公共交通の「リ・デザイン」に向けた施策

3つの共創

官民の共創



交通事業者間の共創



他分野を含めた共創

地域交通と、様々な他分野との垣根を越えた事業連携を実現



交通DX

交通GX

自動運転



MaaS

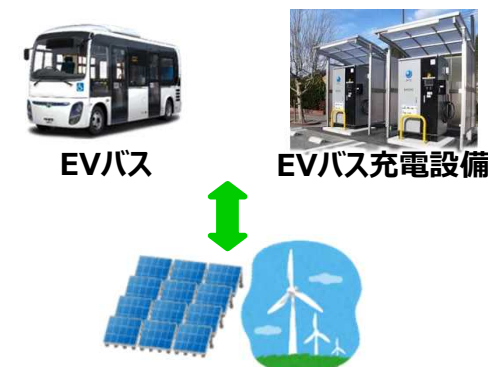


AIオンデマンド交通



等

交通のコスト削減・地域のCN化



地域の関係者の連携と協働を通じて、
 地域公共交通を、より利便性・生産性・持続可能性を高い姿へリ・デザイン（再構築）

『MaaS (Mobility as a Service)』とは…

「地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせ、さらには移動の目的地におけるサービスとも連携し、検索・予約・決済を一括で行うサービスのこと」「新たな移動手段(シェアサイクル等)や移動目的に関連したサービス(観光地や飲食店のチケット購入等)も組み合わせ提供することが可能」
 (国土交通省『地域公共交通計画等の作成と運用の手引き(第四版)』より)



都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会 中間とりまとめ概要

事業者間のデータ連携

- 関係データの範囲及びルールの整備
- データ形式・API仕様の標準化に向けて
- データ提供・データ利用のルール
- データプラットフォームのあり方について

運賃・料金の柔軟化、キャッシュレス化

- サブスクリプション(定額制)・事前確定運賃
- ダイナミックプライシング
- ICカードの普及とQRコード決済や生体認証の導入

まちづくり・インフラ整備との連携

- 多様なモード間の交通結節点の整備
- 新型輸送サービスに対応した走行空間の整備
- まちづくり計画・交通計画の移動データの活用

新型輸送サービスの推進

- AIオンデマンド交通
- グリーンズローモビリティ
- 超小型モビリティ
- 自動運転による交通サービス

交通(様々な交通モード)に加え、移動目的(観光施設、飲食、買い物など)とも連携し、検索・予約・決済をワンストップで提供

九州における事例：九州MaaS

- 「九州MaaS」とは、九州全域の多種多様な交通モードの情報や機能を集約、ワンストップ化したMaaSサービス（2024.8.1開始）。
- 九州全域を対象として、様々なモードの交通事業者や観光事業者、自治体等が連携し、ボーダレスなサービスを移動者・来訪者に提供。移動の円滑化・広域化・活性化の促進、地域の活力創出の機会提供を目指す。



一般社団法人 九州MaaS協議会

九州MaaSの運営組織として、2024年4月発足。九州全域（一部は他地域）から、官（九州各県）と民（交通事業者等※）の100社局以上が会員として参画し、参画会員の会費をもって九州MaaSの企画、運営を実施。

※バス・タクシー・鉄道・旅客船・航空等各交通モードの交通事業者、非交通事業者（観光事業者等）、経済団体など



主な事業内容

【MaaSアプリ「my route」上でのサービス提供】

- 既存のMaaSアプリ「my route」にて、九州全域・多様な交通モードにおける経路検索・予約・決済サービスの提供。
- エリア・モード横断的な企画乗車券、交通に加え観光・商業施設等と連携したデジタルチケット等の造成・販売（ALL KYUSHU PASSなど）。
- 目的地に関する情報（観光・イベント情報）等の情報発信。

等

【その他】

- 乗継利便性向上のための取組（交通モード間のダイヤ見直し、乗場環境改善等）、インバウンド対応など、各種フィジカル施策の検討。 ※順次施策を実施。
- 九州MaaS利用に関するデータ（デジタルチケット販売、利用データ等）の取得、当該データをはじめとする各種データの分析・利活用の推進。
※分析・利活用手法の検討・確立。その後、順次取組を進める。
- 認知度向上のための広報・PR。

等



背景・必要性

○「デジタル田園都市国家構想実現会議」のもとに設置された「**地域の公共交通リ・デザイン実現会議**」における議論を踏まえ、地域交通の活性化と社会的課題解決を一体的に推進するため、**MaaS等のデジタルを活用**しつつ、持続可能な公共交通の実現を目指す。

共創・MaaSプロジェクト

○地域の多様な関係者の**MaaS等のデジタルを活用した「共創」(連携・協働)**に係る取組について支援を実施。

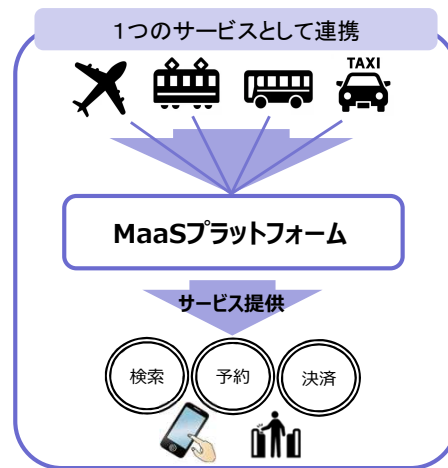
● 日本版MaaS推進・支援事業

➢ MaaSを活用した広域連携・他分野連携の取組みを支援し、交通事業者間や他分野事業者間の「共創」を推進する。

● **新しいモビリティの導入支援 (AIオンデマンド交通やグリーンスローモビリティ、シェアサイクル、電動キックボード等)**

● **マイナンバーカード活用型交通サービス導入支援**

● **新モビリティサービス事業計画策定支援**



交通DX (MaaSの実装に向けた基盤整備)

● **キャッシュレス決済の導入支援 (ICカードやQRコード・タッチ決済、顔認証等)**

➢ キャッシュレスによるシームレスな移動の実現により、決済データ蓄積によるサービスの高度化を可能にするとともに、交通分野における人手不足などの課題解決を図る。(クラウド型キャッシュレス決済システムの導入について支援重点化)

● **データ化の支援 (GTFSによるバス情報標準化、混雑情報提供システム)**

➢ 地域内・広域でのデータ連携を実現するため、デジタル化が進んでいない中小事業者等の底上げとして、DXによる経営やサービスの効率化、高度化を図る。



○ 地域公共交通のリ・デザインと社会的課題解決を一体的に推進するため、**交通DX・交通GX**により交通分野における利便性向上や経営力強化を図ることで、持続可能な公共交通の実現を目指す。

【支援内容(補助率)】

事業主体
公共交通事業者等

交通DX

新たな決済手段の導入(1/3、1/2)

● **ICカードやQRコード・タッチ決済、顔認証等のキャッシュレス決済**

➢ キャッシュレスによるシームレスな移動の実現により、決済データ蓄積によるサービスの高度化を可能にするとともに、交通分野における人手不足などの課題解決を図る。

【重点化】

サービス相互の連携やデータ活用の推進のため、**データ連携に適したキャッシュレス決済**(クラウド型キャッシュレス決済システムを想定)の導入に対する**補助率は1/2**とし、重点的に支援。



QR読取機能付き改札機



クレカタッチ決済

その他、交通DXの取り組み(1/2)

● **運行管理システム、乗務日報自動作成システム、配車アプリの導入等**

● **GTFSによるバス情報標準化、混雑情報提供システムの導入**

➢ 地域内・広域でのデータ連携を実現するため、デジタル化が進んでいない中小事業者等の底上げとして、DXによる経営やサービスの効率化、高度化を図る。



配車アプリの導入



バス情報標準化



列車位置情報提供サービス

交通GX

GX車両等の導入(1/3)

● **EVバス・EVタクシー等の導入**

● **EV車両用充電施設の設置等**

➢ 営業用車両の電動化等を進め、低炭素化を図る。



EVバス



EVバス充電設備

- 地域づくりの一環として行うバスサービス等について、自動運転レベル4の社会実装・事業化を後押しするため、地方公共団体が実施する自動運転の取り組みを支援。

<対象事業者(イメージ)>

地方公共団体(都道府県・市町村)及び道路運送事業者等

- ※ 将来的に「レベル4」の自動運転移動サービスの実現が見込まれる者であること。



○事業のポイント

- ・ 自動運転による地域モビリティの構築、及び社会受容性の向上
- ・ 地域に根ざした自動運転の通年運行
- ・ レベル4の実現に向け、運転者が不在となることを前提とした技術の磨き上げ 等



自動運転・隊列走行BRT イメージ
(ソフトバンクHPより)

<対象事業のイメージ>

- ・ 専用道などを用いたBRT自動運転移動サービス
- ・ 定時定路線型の自動運転移動サービス
- ・ 特定のポイント間で運行するデマンド型の自動運転移動サービス 等

<補助対象経費>

- ・ 車両改造費
- ・ 自動運転システム構築費
- ・ リスクアセスメント、ルート選定等の調査費 等